大阪城

2024 7/8 (月) 14465号

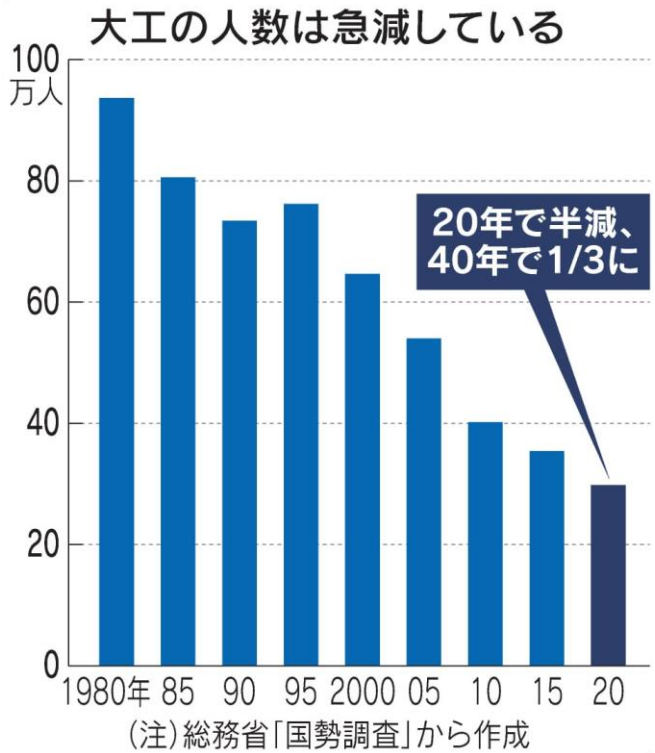
金港湾西成分会

ゴルフ 6647-4947

早朝、公園では蝉が鳴きはじめた。気温も34〜37度になってきて、熱中症ではこばれる人も出はじめている。三重の方では39度を超えたという。自然の熱との戦いは本格的になってきた。

今日(7/8)は、安倍銃撃事件より2年だという。先日、近鉄・西大寺駅北口に行くことがあったが、当時とは、なぜか駅前の風景がガラリと変っていた。山上被告(43)は、7/3、第4回公判前整理手続きで、都島の大拘から車で奈良地裁まで行ったと報道されている。裁判長、検察、弁護士とともに、打ち合わせには3回ほど参加しているという。事件から2年の間に世間の風景もだいぶ変ってきた。自民党・安倍派も裏金で消えてしまった。派閥をやめるといって自民党も変っている。覆水盆に返らずというし、物理の世界では「エントロピーの法則」といい、一度、払散はじめるとよほどのエネルギーを新しく打ち立て投入しないと、新しい核と体制は生まれない。

アメリカでは、山上が観て心にしみたという映画『ジョーカー』パート2が撮影中で完成まじかだという。山上事件も意識したパート2になるのだろうか。



熱暑日の屋外労働も人が集まらない課題

住宅の建設や修繕の担い手である大工が減っている。2022年末公表の国勢調査によると、20年時点で30万人弱と過去20年で半減した。賃金水準などの待遇改善が遅々として進まず、若い世代が減り、高齢化が一段と進んでいる。新築建設では、すでに不具合の増加が一部で指摘されているほか、今後は6000万戸超ある既存の住宅の修繕の停滞も懸念される。

40年前の3分の1

国勢調査によると、大工の人数は20年時点で29万7900人。40年前の1980年と比べると約3分の1の水準だ。建設業の労働環境に詳しい芝浦工業大学の蟹沢宏剛教授は「建設・土木作業員全体でも人数は減っているが、減り方はピーク期の300万人超から200万人弱へとおよそ3分の2の減少だ。大工の人数の落ち込みは著しい」と話す。

ほかの業種より高齢化も際立つ。20年時点で大工の約60%が50歳以上で、うち30%超は65歳以上だ。一方、30歳未満は7.2%にとどまる。「このままなら、35年前後に約15万人となり、40年代前半には10万人を切る水準まで減る」(蟹沢氏)日経新聞2023-4